

わが職場

多度津造船株のある多度津町は、こんびら参りの船着場として、万葉の昔から港町として栄えた町で、また、四国鉄道発祥の地でもあり、文豪・志賀直哉の『暗夜行路』にも、主人公の謙作が尾道から船で多度津に渡り、汽車に乗って金比羅山に向かったと記述があるように、讃岐随一の交通文化の中心として栄えた町でもあります。多度津造船(株)は多度津港に面しており、約40万平方メートルの敷地に、協力会社を含めて約千人の従業員が働いていて、2015年からは今治造船グループとして、主に「ばら積み貨物船」「自動車運搬船」等を建造しています。

造船業は、きつい、汚い、危険という3K職場のイメージが未だに払拭されてなく、造船工業会

加盟会社でも休業災害発生率1・0の上だ、下だと一喜一憂しているような世界であり、決して安全成績も良くありません。

当社においても災害は発生していて、その原因のほとんどが被災者の不安全行動であり、安全管理で問題となる不安全行動は「決められたことが守られない」という形で現れますが、「決められたことを守る」には私が重要で、私が従業員に常々訴えているのが「安全に關しては従業員一人一人が管理監督者である」ということです。

製造業の仕事は、物を生産することであり、品質・原価・生産⇨仕事を通じて認識しなければなりません。また、従業員に要求されることは、

- ①人間関係を良くし、
- ②危険要因を先取り、
- ③決められたことを守り、
- ④作業手順を守る(改善する)、
- ⑤危険なことはさせない、

しないということ、どんな仕事についても、どんな職場についても、そこに人が介在する限り「安全」を常に考えて実行していかなければならないということ、安全と生産は表裏一体である」ことを管理監督者も従業員一人一人も同様で忘れてはならないということを原点と捉えて、当社でも取り組んでいます。

今後も、危険予知活動、安全衛生パトロール、ヒヤリハット活動、各種安全衛生教育、リスクアセスメント等々を継続的に実施して、労働災害防止及び快適な職場環境の促進をして、心身ともに健康で安全な職場を構築して行くように取り組んで参ります。

『ご安全に!』

多度津造船株式会社

安全グループ

小林 靖季